

事 務 連 絡
令和 6 年 6 月 1 日

各 区 長 様

三木市立総合隣保館長

「隣保館だより」の回覧について(依頼)

青葉の候、貴職におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

日頃は、隣保館事業の推進につきまして格別のご理解ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「隣保館だより」の全戸回覧について、お忙しいところお手数をおかけしますが、ご協力いただきますようお願いいたします。

記

- 1 送付物 隣保館だより 6月号
- 2 送付部数 回覧部数分
- 3 連絡先 三木市志染町吉田823
三木市立総合隣保館
Tel 82-8388 担当：澤田、大坪、橘田



ひろがれじんけんネットワーク

三木市人権啓発紙

隣保館だより

RINPOKAN DAYORI



隣保館で活動する自主活動サークル 大西道場（空手）のみなさん

ホームページ URL

<https://www.city-miki.lg.jp/site/sou-gourinpokan/>



空手を通じて強く優しい人に 大西道場代表 大西 秀樹

私は、強さに憧れ、若い頃より極真空手や格闘技を修練してきました。その経験を活かして、老若男女問わず人財育成に役立てたいと思い、約20年前から人権の中核ステーションである隣保館の1階大会議室をお借りして指導に取り組んでいます。

道場生は大人から子どもまで、障がい者もシリアの子どもたちもみんなです。それぞれの個性に合わせて楽しく取り組ませています。

様々な個性と向き合う事で、全ての道場生が共に認め合い、成長できる事を実感し、それを見ている保護者の方々も、個々の進歩に目を細めています。真面目に、好きなことに取り組む事や、厳しさを乗り越えた先にある達成感を体験する事を大切に、強さと優しさを兼ね備えた人財の育成に引き続き取り組んでまいりたいと思います。ありがとうございます。

❖ 「隣保館だより」は、市民の皆様にご覧いただき、総合隣保館の活動や人権尊重の生き方のヒントになるような情報をお届けする啓発紙です。
❖ 次ページ「人権の小窓」は小学生絵本作家、そうたさんとお母さんへのインタビュー記事、「伝えたい『心のだっこ』」です。

人権の小窓(265)

伝えたい「心のだっこ」

～小学生絵本作家と母へのインタビュー～

『だっこがしたい足くん』（作・絵 そうた Clover 出版）という絵本が、2023(令和5)年10月に発売されました。

この絵本の作者は、志染小学校5年生、そうたさん。現在、お母さんの入江まりさんと絵本ライブ活動を展開中です。

去る5月1日、総合隣保館で絵本ライブをお願いしました。その後、お二人にインタビューをさせていただきました。



そうた(入江爽太)(写真右)2013年兵庫県生まれ。小学1年生から絵を描き始める。憧れの絵本作家はのぶみさん
入江まり(母)(写真左)子育て体験をもとに「食と想いが人生を変える」と題して全国でお話会&絵本ライブを開催中。

そうたさんの絵本ライブ

「今日もパンダフル、そうたです。今から絵本ライブを始めます！」

そうたさんは、部屋中にひびく声で、隣保館の職員の前で「だっこがしたい足くん」の絵本を読み始めました。まりさんは隣に立って、そうたさんの朗読に合わせて絵本の原画を1枚1枚めくりします。

「だっこがしたい足くん」

登場足物: 足くん パンダくん おまわりさん

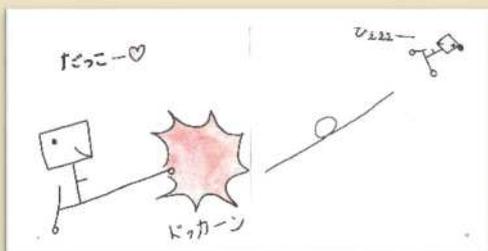
【あらすじ】

「足くん」は、だっこがしたくてたまりません。しかし「足くん」だけに、手がありません。なので、だっこをしようとする、友だちをけとばしてしまうのです。

「パンダくーん **だっこ**しよー」

「**だっこー**♡ ドッカーン」

「ひええー」



「やっちゃった」

失敗して悲しむ足くん。でもパンダくんは、足くんを許してなぐさめてくれます。そこへおまわりさんがやってきて、足くんに話します。

「あのね足くん **心のだっこ**もあるんだよ、**心のだっこ**は手がなくてもできるよ」

「どゆこと?(どういこと?)」と足くんが聞き返すと、「やさしい**ことば**をいいあったり、にっこり**えがお**でわらいあったりすると**心のだっこ**ができるんだよ」とおまわりさんが答えます。

「じゃあぼくにも**だっこ**ができるんだ」

「うーれーしーいー、おまわりさん パンダくん あーりーがーとーうー」……

そうたさんは、「**聴いてくださってありがとうございました。今日もパンダフルな一日を～!**」と、決まり文句で締めくくり、ライブを終えました。

足くんが友だちのパンダくんをけとばしてしまうところでは私たちも思わず笑ってしまいました。

また、次の場面のおまわりさんが登場して足くんに話すところでは、「**心のだっこ**」という言葉に深い意味があると感心しました。

そして、感情豊かに表現するそうたさんの朗読、単純だけれどインパクトのある絵、どちらも印象的で、聞いているうちにいつの間にか私たちはファンタジーの世界に引き込まれていました。そうたさん、素晴らしいライブを「**どうも、ありがとうございました。**」



お二人へのインタビュー

《絵本作りのきっかけは?》



澤 田:この絵本のキャラクター「足くん」や絵本を作ったきっかけはどんなことですか?

そうた:小学1年生のころ、国語の授業中に足という漢字を習っていた時、担任の先生が字に帽子、目、口を書いてくれたのがきっかけです。

澤 田:絵本作りはその時からですか?

そうた:はい。それでぼくは A4用紙を8つに切った紙の端をホッチキスで止めて「おにとぼうし」という絵本を作りました。足くんやおにくん、パンダくん、からあげくんなど、いっぱい考えました。

ま り:キャラクター図鑑も自分で作っていました。そして2年生の時、絵本作家の長谷川義史さんが小学校に来られたので、「おにとぼうし」を長谷川さんに渡したんです。

そうた:そしたら長谷川さんが講演のときに全校生の前で「絵本を書いたっていう子がいるから読みます」と、読んでくださいました。みんながウケて大笑いしているのを見て、自信が持てました。

澤 田:長谷川さんの絵本はお母さんも好きだったのですか?

ま り:はい、以前から絵本が好きで、吉川町の図書館で長谷川さんの絵本を借りて親子で読んでいました。私たちが大好きな先生から「けったいやけど、このまま続けたらいい」と、そう言われ、本当にうれしかったです。

それから3年生の冬から、息子のあこがれの絵本作家、のぶみさんの「オンライン絵本塾」に1期生として参加して指導を受けました。

そうた:その絵本塾で文章を書く課題が出て、ぼくがだっこのが好きだったから、だっこの話にしようと思って。登場人物には足くん、パンダくん、おまわりさんの3人のキャラクターを選びました。



《笑顔と希望を全国に届ける》

澤 田:ところでお母さん、絵本にそうたさんが発達障がい「だった」と過去形で書かれていますね。

ま り:はい、この子は幼い時から、視線が合わない子でした。気持ちも言葉も通じにくい子で、4歳で「自閉症・ADHD」と診断されました。自閉症は治らないと日本では言われているのですが、アメリカなどではそんな捉え方ではなく、「栄養

療法」などで回復しているケースがあることを知りました。そこで、不自然なものを排除し、自然なものを取り込むという実践をしました。例えば、食材を実家の畑で栽培している有機野菜に変えたり、人工添加物など不自然なものは避けるようにしたりしました。私自身の心も変え、起こること、出会う人に感謝をすることに心掛けていると不思議と息子と視線も合い、心も通じ合うようになってきて、5歳を過ぎるころ、お医者さんから「自閉症・ADHD」という診断名は不要ですと言われました。今では、「ぼくの絵本でみんなが楽しい気持ちになってくれたらうれしいな」と喜々として絵本ライブをしている息子の姿をうれしく思います。そして私たちはいろんな人に支えられていると強く感じています。

澤 田:それでまりさんはご自身の経験をいろんなところでお話をされているのですね。

ま り:はい。「食と想いが人生を変える」と題して全国でお話会&絵本ライブをさせてもらっています。同じような悩みを抱えた人の心に寄り添って、少しでもお力になればと思います。でも、私の話より、息子の絵本ライブの方が人の心をつかみ大人気だったりします。

澤 田:なるほど、そうやってお二人で全国に笑顔と元気を届けているのですね。そうたさんの夢は何ですか。

そうた:これからももっとお話を作って読んだ人に元気になってもらいたいです。新作の「パンがたべたいパンダくん?」という絵本も出パン(版)したいです。この前、市内のふれあいサロンでライブをして、聞いた人が涙を流して喜んでくれました。うれしかったです。絵本ライブでは、同じ話を関西弁でしたり、おじいさんおばあさん言葉でやったりしています。いろんな所でもっとしたいです。



澤 田:そうですね。わかりました。本当にそうたさんは元気でアイデアいっぱいですね。その元気のもとは何ですか。

そうた:だっこです。お母さんからだっこのパワーをもらって、ぼくが人にだっこすることでパワーを伝えるんです。してあげますね。はい、だっこー。

澤 田:おーっと、本当だ。だっこのパワーが伝わってきた。私も元気が出てきたよ。

(インタビュアーは、人権教育指導専門員 澤田 薫)



隣保館カレンダー 6月

| 日 | 曜 | 催し・講座など | 日 | 曜 | 催し・講座など |
|----|---|--|----|---|--|
| 1 | 土 | 人権擁護委員の日 | 16 | 日 | |
| 2 | 日 | | 17 | 月 | |
| 3 | 月 | | 18 | 火 | 経営・職業相談 10:00～ |
| 4 | 火 | 経営・職業相談 10:00～ | 19 | 水 | |
| 5 | 水 | 世界環境デー  | 20 | 木 | 手芸サークル 13:30～ 人権相談 13:00～ (三木市役所) 世界難民の日 |
| 6 | 木 | | 21 | 金 | 経営・職業相談 10:00～ 同和教育セミナー 18:30～20:00 |
| 7 | 金 | 経営・職業相談 10:00～ 人権相談 13:00～ (緑が丘町公民館) | 22 | 土 | 茶道教室 9:00～ らい予防法による被害者の名誉回復及び追悼の日 |
| 8 | 土 | | 23 | 日 | |
| 9 | 日 | | 24 | 月 | エアロビクス講座 14:30～15:30 |
| 10 | 月 | エアロビクス講座 14:30～15:30 | 25 | 火 | 経営・職業相談 10:00～ |
| 11 | 火 | 経営・職業相談 10:00～ | 26 | 水 | |
| 12 | 水 | | 27 | 木 | 手芸サークル 13:30～ |
| 13 | 木 | | 28 | 金 | 経営・職業相談 10:00～ 同和教育セミナー 18:30～20:15 |
| 14 | 金 | 経営・職業相談 10:00～ 同和教育セミナー 18:30～20:00 | 29 | 土 | |
| 15 | 土 | 書を楽しむきらきら教室 13:00～ 茶道教室 9:00～ | 30 | 日 | |

同和教育セミナーを開催

☆開催時間はいずれも18:30から20:00ごろまで

第1回 6月14日(金)

会場 三木市立教育センター
演題 「インターネットに表出する実社会の人権の課題」
講師 公益財団法人反差別・人権研究所みえ
松村 元樹さん

第2回 6月21日(金)

会場 青山公民館
演題 「であいつながらり・差別解消をめざす北芝のまちづくり」
～誰もが安心して住み続けられるまちへ～
講師 NPO 法人暮らしづくりネットワーク北芝
埋橋 美帆さん

第3回 6月28日(金)

会場 吉川町公民館
演題 「性の多様性から『じぶん』について考える」
～誰もが排除されない社会をめざした子どもたちとの出会いからみえてきたこと～
講師 にじいろ i-Ru(アイル)
田中 一步さん、近藤 孝子さん

スマートフォン体験講座(入門編)

日時：令和6年7月29日(月)
13:30～15:30

会場：総合隣保館1階大会議室

講師：スマートフォンアドバイザー

定員：20名(最少開講5名)

対象：「スマートフォンを所有していない方」、または「スマートフォン初心者の方」

※個人のスマホの使用は不可。講座で使用するスマホは1人1台無料で貸出します。

皆様のご参加をお待ちしています！

申込み：令和6年7月22日(月)まで

人権啓発紙「隣保館だより」6月号

令和6年6月1日発行(毎月1日発行)

三木市市民生活部 人権推進課編集

〒673-0501 三木市志染町吉田 823

三木市立総合隣保館 TEL 0794-82-8388

FAX 82-8658 E-mail:jinken@city.miki.lg.jp